



雑感 ～伝統の力とは～

朝、「北小の朝を元気にしたい（隊）」の6年生とあいさつ運動をしているときに、私は、よく6年生にたわいもない質問をします。

「今日、学校での一番のお楽しみは何？」
「給食のメニューでは何が好き？」など
こどもたちとのコミュニケーションを楽しみながら登校するこどもたちを迎えています。

しかし、質問の中には、こどもたちはどんな思いを持っているのかなど、意図的に聞いている質問もあります。それは、この質問です。

「北小のいいところって何だと思う？」

質問されたこどもたちは、ちょっと考えながらも、必ずと言っていいほど次のキーワードを話してくれます。「北小は、『**伝統**』があって・・・」

もちろん、朝の短い立ち話の中での話なので、それ以上に詳しく根掘り葉掘り聞き出すことも難しいのですが、こどもたちの心には北小の「**伝統**」という意識が深く刻まれていることは間違いありません。こどもたちの姿から「**伝統**って何だろう」とあらためて考えています。北小には他校にはない長く、素晴らしい歴史があることは事実としてわかっています。「じゃ、それに伴う**伝統**のよさ」とは・・・。それは、

「**（誰かに言われたわけではないけれど）先輩たちの姿を見て、当然「やるべきこと」として受け止め、疑いもなく自然と行動できること**」

かなと感じています。

6年生の朝のボランティア清掃、通学班での下級生の歩くスピードに合わせながら、安全に通学させる班長の対応、学校内で困っている下級生がいれば、手を引きやさしく接している姿、男女関係なくこやかにあいさつを交わす様子、してもらったことに対してきちんと感謝の言葉を伝えること等々、あげたら切りがありません。そんな素敵なこと、素晴らしいことを子どもたちはわざとらしさなく、さりげなくやってしまうのです。意識せずに。校長として自画自賛にはなりますが、北小の子は本当に素晴らしいと思っています。



行動の意義や目的など、難しいことはあまり深く考えていないかもしれないけれど、やるべきことはやるという態度・行動こそ「北小の**伝統**の重み・強さ」かなと感じています。先輩たちから脈々と受け継いでできているものが、体にしみこんでいるとでも言えいいのでしょうか。

もちろん、子どもですし、人間ですから全ての言動が「**聖人君子**」のようにいくはずもありません。しかしながら、「君たちにはこんないいところがあるよ。」「ありがとう。とってもうれしかったよ。」とよさや感じた心を伝えていくことで子どもの中にある意識も強化され、さらに強い**伝統**になっていくと思うのです。

家庭内だとどうしても身近すぎて、子どものよさが見えにくくなりがちですが、気づいたら、感じたら是非、子どもにフィードバックしてあげてほしいと思っています。